



町内外から約 100 名の皆様にご参加いただきました。

# 熊本県立大学COC通信

熊本県立大学  
COC推進室

## 大津町でフューチャーセッションを開催！

対話を通じた地方創生を目指し、本学と大津町とが共催したフューチャーセッションに、本学学生 25 人が参加しました。

6 月 27 日(土)、本学と包括協定を結ぶ菊池郡大津町の生涯学習センターにおいて、本学と大津町との共催によるフューチャーセッションを開催し、町内外から約 100 人が参加。本学からも 25 人の学生が参加しました。

このセッションは、住民との対話を通じてアイデアで地方創生に取組みたいという町からのリクエストを受け、総合管理学部の丸山教授のコーディネートにより実現したものです。

セッションに先立ち、町外から参加する学生達のために企画されたバスツアーでは、町職員の案内で、町内の名所や旧跡を 2 時間かけて巡り、これまで知らなかった町の多彩な魅力に触れることができました。

午後 1 時、いよいよセッションがスタート。高齢者から高校生まで多様な世代、立場の人が一同に会し、対等な立場で対話するのがフューチャーセッションの面白さです。



やまざき氏のイラスト絵巻物による振り返りで意見を共有化

### グラフィックファシリテーションを活用

今回は、対話の内容を即座にイラスト化して記録するグラフィックファシリテーター・やまざきゆにこ氏をお招きし、セッションの流れを絵巻物として記録してもらいました。

まずは「ワールドカフェ」の手法で、参加者一人一人が町の将来について感じている不安や心配を出し合いました。

「観光客の通過点」、「町の南北で進む少子高齢化」、「工場や商業施設が撤退したらどうなるのか」等、様々な意見をやまざき氏が即座にイラスト化し、これをセッションの途中で見返すことで、対話の流れや、出された様々な意見を皆で共有できました。

不安や心配といった感情を共有した後、今度は、町の誇り、宝と思うモノ・コトを

出し合い共有していきます。特産品の「からいも」や、美味しい水、大津高校といった地元ならではの意見に加え、バスツアーに参加した学生からは、町の北部や南部の美しい農村景観といった「よそ者」ならではの意見が出されました。その後各グループで、「宝」を組み合わせてやってみたいアイデアを 20 個出し、その中で一番やってみたいものを投票で選びました。

最後は各グループで、選んだアイデアが実現した未来新聞を作り発表。様々なアイデアが出されましたが、とりわけ町民のソウルフードとも言える「からいも」を活用したアイデアが目立ちました。地元参加者からは、からいもを使った新しいメニューの開発や、コース料理の開発等、具体的なアイデアの実現に向け大学や高校とも連携して取り組みたいと熱い意見が出され、今後の展開が期待されます。



「いも愛」に満ち溢れた様々なアイデアが出されました。



学生や自治体職員約40名が参加されました。

# フューチャーセッション・セミナー ～会議を絵空事で終わらせないために～を開催

## 「グラフィックファシリテーション」って何だろう？

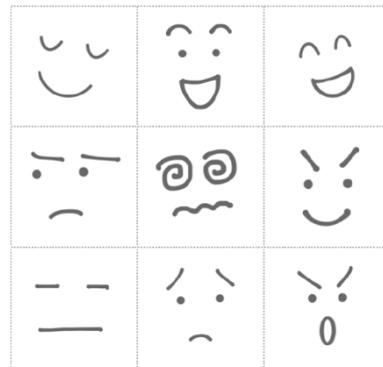
6月26日(金)、大津町でのフューチャーセッションに先立ち、グローバルセンター111教室において、グラフィックファシリテーター・やまさきゆにこ氏による、「フューチャーセッションセミナー」～会議を絵空事で終わらせないために～を開催し、学生や自治体職員約40名が参加しました。

「グラフィックファシリテーション」とは聞きなれない言葉ですが、会議やセッションの内容を聴きながらイラストで記録し、意見の共有やフィードバックを図る、やまさき氏の登録商標です。



グラフィックファシリテーションは、対話の中で収穫された参加者の様々な意見を、イラストによって「見える化」することで、「この感情の共有化」をお手伝いする技術です。

絵を描く事が苦手な人でも、良く使われる9種類の顔だけでも様々な感情を表現することが出来るそうなので是非お試しください。



©yunico

## フューチャーセッションは嫌い!?

近年、各地で「フューチャーセッション」が開かれ、様々なファシリテーションスキルを身に付けた人も増えていきます。しかし、中には、面白いだけのアイデアや、何処にでもあるお国自慢を並べるだけで終わってしまうセッションも多々あります。そうした「ハート」が感じられない「ありがちフューチャーセッション」が嫌い!というやまさき氏が体験された例をご紹介します。以下は「社会課題を解く!」といった漠然すぎるテーマや、「～のあるべき姿とは」といった硬直的なテーマ設定

・参加者の「多様な知」を求めあまり、専門家ばかり招集。  
・ファシリテーターが「場に任せっぱなし」  
・仕事上の上下関係を持ち込んだり、短期的効果や結論を急ぐ「会議」

## 「ネガティブ」で仲良く!

「ありがちフューチャーセッション」に陥らないためには、参加者に課題を自分ごととして捉え発言してもらう必要があります。そのためには、個々の不安や心配といった「ネガティブ」な感情を共有することがポイントだそうです。

「ネガティブ」な感情を共有することで、誰もが与えられた課題を「何とかしたい自分ごと」として捉え、対話が深まります。

また、誰のためのセッションなのか、そのために誰を呼ぶのか、どんな発言をして欲しいのか等々、主催者とコーディネーターとが事前に方向性を決めておかないと散漫な対話や硬直化した議論になってしまいます。

「セッションが絵空事になるかどうかは、参加者の「ハート」に火が点くかどうかセッション主催者の設計が最も重要」とまとめられました。